

新潟県上越地域

海・山・川 四季の変化 自然豊かな地域

上越地域は新潟県西部に位置し、富山県・長野県と隣接しています。この地域は山が海にまでせり出し、その合間を縫うようにして川が流れ、豊かな自然を体験することができる土地です。国内有数の豪雪地帯でありながら、夏は緑が茂み、秋には稲穂が実るなど四季の変化も豊かです。

様々な文化を有する個性ある地域

また、かつての城下町であった高田、港町の直江津、宿町であった糸魚川など、独特の文化を持つ複数の地域があり、平野部には田園が広がり、酒造も存在し、沿岸部には漁村が連なるなど、様々な歴史や伝統を持つ地域でもあります。

北陸新幹線開通により都心へのアクセス性が向上

また、2014年度には北陸新幹線が金沢まで延伸する予定です。これによりこの地域にも新幹線が通り、上越駅(仮称)(JR諒野田駅付近)と糸魚川駅に2つの駅ができます。現在は駅舎のデザインが決定し、建設が進められています。



▲山際が海岸までせり出す



▲夜桜で有名な高田公園の桜



▲糸魚川駅



▲直江津駅



	現状	開業時
上越—東京間	140分	95分
糸魚川—東京間	160分	110分
上越—金沢間	115分	50分

大幅な時間短縮！！

地域の課題とこれからの目標像



▲活気が衰退する糸魚川駅前商店街

将来への懸念—地域の活力の低下—

日本の多くの地域と同じように、この地域でも少子高齢化が進行しています。また、新幹線が通ること、都市との時間的距離が短縮されて便利になる一方で、ほかの地域との競合も避けられなくなります。今後は地域のポテンシャルや魅力を活かした街づくりの手法が必要になると考えます。

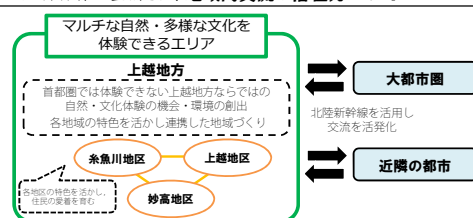


▲駅前商店街に残る趣ある家屋▼

郷土愛を育み、
地域の魅力を活かした
まちづくりが必要

地域に対する理解—郷土愛が強く、多くのポテンシャルを秘めた土地—

- ・新潟県民は郷土愛が強く、可能であれば地元で暮らしたいと考えている。
- ・しかし、地域の活力となる資源や観光地には疎く、必ずしもポテンシャルを理解していない。
- ・歴史的に教育に力を注ぐ地域で、優秀な人材を輩出する力を持っている。
- ・太平洋側では体験できない、マルチな自然を体験できる環境が整っている。
- ・在来線、高速道路、さらに北陸新幹線が整備され、地域間交流の潜在力がある。



地域調査・情報収集

ヒアリング調査 —地元自治体の施策を知る—

対象地域のまちづくりの計画や北陸新幹線延伸に伴う開発に関しての情報を得るために、上越市および糸魚川市にヒアリング調査を行いました。

【上越市】

・新幹線駅が建設される諒野田駅周辺を開発し、現在のまちの中心地である高田・直江津に続く、上越市の玄関として新たな中心地の形成を図る。

・地元産業の体験プログラムをつくり、来訪客を呼び込む。

【糸魚川市】

・既存の駅舎に増築する形で新幹線駅舎を建設する。新たなアクセス道路・駅前広場の整備は行いが、大規模な駅前開発は行わない。

・世界ジオパークに認定された観光資源を活かし、観光地やアクセスルートの整備、観光ルートの設定などを行い、来訪客を呼び込む。

▼地元紙からの情報収集



地元紙による情報収集調査

—地域の情報を知る—

地元紙『新潟日報』から、新潟県内の時事的な情報を収集しました。主に、①地域活性化に係る記事、②北陸新幹線に関する動向、の二つの視点から記事を収集しています。

①地域活性化

- ・地域のイベント、観光資源に関すること
- ・学校教育に関すること
- ・NPO団体や企業の活動に関すること

②北陸新幹線の動向・活用方法

- ・新幹線開通に伴う開発、観光事業の構想
- ・並行在来線は、地域内交通のあり方について
- ・住民の意向調査の結果

アンケート調査 —地元出身者の意向を探る—

地元住民および地元出身者に対してアンケート調査を行いました。調査の内容は、①居住や就業に関すること、②北陸新幹線延伸に関すること、③地元の魅力・不満、④活性化手法 です。

地元在住者

■北陸新幹線延伸を歓迎しますか？

【歓迎する】
・ジオパークの面から観光客を増やすこともできる。
【歓迎しない】
・地域にとってメリットが少なく、建設費が多。
・それほど早く東京に行く必要性を感じない。

■北陸新幹線延伸で旅行回数は増えますか？

【増える】
・行動範囲が拡大するので、近い都市(上越)まで15分で行けるから。
【変わらない】
・移動手段が自動車なので。

■地元以外での就職を考えましたか？

【考えた】
・大学が東京だったから。
【考えていない】
・生まれ育った場所でも働きたいと自然に考えていた。
・通勤を乗り上げたい。長男だから。

■地元に住居する上での不満はありますか？

・医療施設、福祉施設が不十分
・雪が降る
・若い人がいないのが不安

■あなたの考える、地域を元気にする方法を教えてください。

・地理的、交通アクセス的に良好な土地とあるので、企業誘致をして、優秀な人材を呼び集めることが必要。
・ジオパーク、海水浴場、スキー場をもっとアピールして、若い人たちを呼び込む観光策が必要。

関東在住者

■北陸新幹線延伸を歓迎しますか？

【歓迎する】
・駅が近く、便利になる。加えて上越地域の活性化の模範例にしたい。
【歓迎しない】
・通過地点になって、不都合を感じる
・市街地、商店街の一層の空洞化が懸念されるため

■北陸新幹線延伸で帰郷回数は増えますか？

【増える】
・高利になり、マイカーでの帰郷が困難になれば利用し、便利で新しいので帰郷が増えると思う。
【変わらない】
・帰省するときに利用したとしても、増えはしない。

■地元での就職を考えましたか？

【考えた】
・生まれ育った土地だから、地元で働きたい
【考えなかった】
・希望する職種が見つからなかった。中央で仕事をしたかった。
・将来は戻りたいと思ったが、就職は首都圏を考えていた。

■今後、地元に戻る予定はありますか？

【戻る予定がある】
・生まれ育った場所だからいつかは戻りたい
【戻る予定はない】
・生活の拠点が関東にあり、就職する場所が上越にはない
・家族の都合が取れない
・雪が降る

■あなたの考える、地域を元気にする方法を教えてください。

・高校の同窓会、東京での開催はネットワークを築くことに貢献している。若い人の参加が少ないので、これからも継続させるべき。
・まずは教育レベルの向上が必要。
・米、魚介類、酒などの食をもっとアピールすべき。
・「産されるふるさと」をコンセプトに、温泉・自然・史跡・伝統体験の組み合わせが効果的と考える

施策提案

提案の背景と趣旨

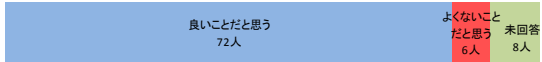
アンケート調査やフィールドワークの結果から「**地域の魅力を発信する方法**」が重要であり、地域外の人に地域のことを知ってもらい機会を増やすことが必要だと感じているということがわかりました。

【アンケートからの意見】

- ・上越特有の歴史、文化、観光をもっとPRすべきだと思ひます。
- ・上越⇄首都圏の人材・情報・交流の場づくり。
- ・大々的に宣伝を行い、より多くの人が上越地方を訪れるよう企画する。
- ・都会人が望むのは「癒されるふるさと」だと思ふ。

また、アンケート調査において**上越地域のこどもと都市圏のこどもとの交流の機会を設けることについて**、肯定的な意見が多く、それが有意義なものであると考えられます。

■上越地域と都市圏のこどもの交流の機会を設けることについてどう思いますか



【賛成意見】

- ・異なる環境を知ること、多様な考え方を知ること、知識の水準や多様性を知ることが相互に刺激となり、成長への糧となると思う。
- ・東京都の接点を見出せるから
- ・だいたいには知ることには、自分を知ることにもつながり、成長にはよい刺激と考えるから。

そこで、義務教育期間中に地元の魅力を十分に理解し、そして地域外部の人たちと係る機会を設けるために、**地域ぐるみの教育プログラムを提案**します。

教育プログラムの先行事例

小学生がまちの未来を考える

ーまちづくり学習とその効果の検証ー

近年、全国各地で将来のまちを担う人材育成を目的に小学生を対象として「**まちづくり学習**」が行われています。

2004年度に日本橋にある中央区立常盤小学校の5年生を対象に実施されたまちづくり学習は、特に先進的な事例としてあげられます。

ここで行われたのは、こどもたちが自ら日本橋の魅力を発見し、それにもとづき日本橋の**理想のまち**を考える学習です。当時の児童たちはこの学習に対して、全員がこれからの日本橋のまちを良くしていきたいと感じています。下表はまちづくり学習の授業内容です。

STEP	授業内容
①	日本橋を知る(地域のことを正しく理解) インターネットや図書など様々な情報を収集・整理
②	日本橋をみる(現地視察) ステップ①で情報を整理したうえで、実際に地域を見学
③	日本橋の未来を考える(発想を整理し提案作成) KJ法から問題を整理し、提案を作成
④	日本橋の未来をつくる(模型作成) ステップ③で提案を模型としてカタチに創出
⑤	模型を発表する(プレゼンテーション) 自分たちの提案をまちの方にわかりやすく伝える

まちづくり学習によって学習直後に**高められたまちづくりへの関心**は、高校2年生となった2010年度においても**持続している**という追跡調査の結果を得ることができました。まちづくり学習では、自分たちの理想のまちを提案することで、高校生の時点で将来自分ができることやその方法を考える助けになるということがわかっています。

初等教育だけではなく、中学教育でも段階的にまちづくり学習を継続的に実施し、自分たちのできることを実践することによって学習の効果が高まると考えられます。上越地域でのまちづくり学習でも、長期的にみてまちに関心をもつ大人を増やすこと、また短期的にみて子供から周囲の大人への波及的な効果が期待されます。

課題

①活性化手法の実施スキームの構築

生徒たちが考えた地域の活性化手法を、実際に行う団体が必要です。考え出されたことが実際にまちづくりに反映されれば、自分たちの行動が街に活力につながることを知り、**自信ややる気につながる**と考えます。

②関係団体との調整

提案したプログラムを実際に行うためには、小中学校・教育委員会・地元商店街・役所などの関係団体と調整の必要があります。また、授業時間を使用することになり、その程度の時間を確保する必要があるか、どのようにプログラムを進めていくかなどの綿密な**スケジュールの構築**が重要となります。

③現場で指揮をとる教員への負担軽減

総合的な学習の時間が小学校教育に導入され、比較的その内容が確立されているので、新たなプログラムを導入するにあたり、教員への負担や時間数の調査などが必要です。可能な限り**現場の負担を軽減**することが大切と考えます。

④費用捻出方法

また交流プログラムについては、移動・宿泊の費用が発生するため、この**資金の確保の方法**を確立させる必要があります。

⑤地域内交通インフラの整備

上越地域内の在来線はJR直江津駅を境に分断されています。また各地区内においては、路線バス以外に公共交通手段がなく、自家用車が主要な交通手段である。したがって、観光客のためのバスルートや、新幹線・鉄道・バスを連携させた運行体系を考慮する必要がある。

地域ぐるみの教育プログラムー学校教育を通して住民みんなで地域を考えるー

小学校・中学校教育のなかで、地域の魅力を発見し、郷土愛をはくむことのできる教育プログラムを導入をめざします。小・中学校という義務教育期間を利用することで、

- ①**地域に住む全生徒がプログラムに参加**でき、**地元のことを知るチャンス**を全員に与えることができる。
- ②**小学生・中学生のときに受ける刺激は、印象が強く心に留まる。**

といった効果を狙います。

STEP 1 地域のことを知る

まち歩きを行い、地域のいいところ悪いところを探します。

【対象学年】小学5年生

【対象範囲】各小学校学区内

【方法】**遠足や総合的な学習の時間**を利用して学区内を**散策**し、実際に自分の目で見て情報を集めます。また、**商店街などでの聞き取り調査**を行うことで、地域の人と係る機会を創出します。最終的にKJ法を使用するなどして「魅力的なところ」「悪いところ」に分け、まとめを行います。

【ねらい】自分たちの身近な範囲に何があるのかを把握してもらいます。また地域のひとと係ることで、大人と一緒に地域を見直す機会をつくります。



発表会:

地域内の小学校全体で発表会を開き、**地域の住民にも出席**してもらいます。自分の住む地域にどんな場所があるのかを知る機会をつくります。



▲実際に自然に触れる機会をつくる

地域間交流プログラムー異なる文化に触れるチャンスの創出ー

小さいときに、自分の地域の外のことを知るとは大変意義があると、アンケートでも多数の意見をいただきました。北陸新幹線延伸に伴い、首都圏とのアクセスが格段に向上することを利用して、**首都圏の小学生を招き**、地域外の小学校間での交流学習の行うことを提案します。

異なる環境で育ち、価値観の違う同年代と接し、**違う文化に触れることで、自分たちのまちと比較する機会**を得ることができます。また、外部の人に実際に上越地域に来てもらうことができ、**地域の魅力に触れてもらうチャンス**を創出することができます。

Another STEP 地域のことを発信する

地域外の小学生を招き、STEP1の経験から、自分たちの住むまちの魅力や地域の外から来た同年代の児童に伝えます。

【対象学年】小学校高学年

【対象範囲】各小学校学区内

【方法】地域外(首都圏)の小学生を招き、現地を案内するなど**地域のことを紹介**します。現在、自治体が設定している農業や地場産業の体験コースなどを利用し、一緒に体験することで、双方が地域の文化に触れます。



体験プログラム「ちよこつと上越」(※引用：上越市HP)

STEP 2 地域の理想を考える

STEP1の経験を踏まえて、どんなまちにしたいのかを考えます。

【対象学年】小学6年生

【対象範囲】各小学校学区内

【方法】数人のグループに分かれ、STEP1で収集した情報から、**理想のまちのコンセプト**を決めます。そのコンセプトを表現するためには、地域のどのような魅力を引き出し、悪いところを改善しなければならないかをみんなで考えます。

【ねらい】地域の特性を知った上で、こどもたちが理想とするまちの在り方を具体的に考えてもらうことで、数ある魅力や改善点の中で、**地域に活力を生み出すためにどのような要素が必要なのか**を考える機会をつくります。



発表会:

同様に地域内の小学校全体で発表会を開き、どんな理想のまちが考えられるのかを共有し、地域のことを考える機会をつくります。



▲街を歩き、地域の魅力を見つける

▲活用できる資源を発見する

STEP 3 地域を元気にする方法を考える

これまでの経験を活かして、どうすれば地域に活力がある状態が続くのかを考えます。

【対象学年】中学生

【対象範囲】各中学校学区内

【方法】小学生の時に知った各地域の魅力について情報交換し、地域全体の特色を把握します。また、地元紙や文獻から地域の情報を収集し、客観的に地域を捉えます。それらの情報から自分たちで出来る「**地域を元気にする方法**」を考えます。

【ねらい】中学校の学区は複数の小学校学区から構成されます。ここで、いろいろな地域があることを理解し、どうしたら**地域全体に活力が出るか**、その方法を考えてもらいます。これにより、地域の中のどんなことが魅力であり、活かすことができるものなのかを知ることができます。



▲地元の産業を体験(※引用：上越市HP)

発表会:

地域内の中学校全体で発表会を開きます。ほかの中学校区で考えられた活性化の方法を知る機会を設け、視野の広さを身につけることを狙います。行政担当者や市長を招き、自治体に声を届ける機会とします。



▲地元の産業を体験(※引用：上越市HP)

展望

ゆくゆくは『一人ひとりが観光大使』に

ー地元ではない場所に住む出身者もまちづくりに参加しようー

小中学校の教育で、地域のことを知る機会をつくることで、上越地域の魅力を知識として蓄えることができ、人に伝える基盤が整うと考えます。

もしも将来、地域の外に出て行ったとしても、出身者一人ひとりが地域の魅力を伝える**発信塔**となり、友人や家族と一緒に上越地域を訪れることで、より多くの人に地域の魅力を伝える機会が創出につながります。また、定期的に地元を訪れることで、地域の状況をコンスタントに知ることができます。

地元を元気にしていくには、**内側・外側双方からの働きかけ**が大切と考えます。

